

# 圏央道全線開通前にシンポつくば

首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の県内区間が本年度中に全線開通するのを前に、「道・未来・シンポジウム」（茨城新聞社、埼玉新聞社主催）が5日、つくば市竹園のつくば国際会議場で開かれた。常総市出身の女優、羽田美智子さんのトークショーや、圏央道の有効活用などを議論するパネル討論があり、参加者約250人が圏央道でつながる茨城と埼玉両県の未来について考えた。

圏央道でつながる茨城、埼玉両県の未来について考えたシンポジウム＝つくば市竹園



## 羽田美智子さんらパネル討論

圏央道の県内区間は2003年以降、順次開通し、残る境古河―つくば中央間インターチェンジ（IC）間の28・4区間が本年度中に開通する予定。

トークショーに先立ち、07年3月の圏央道つくば牛久―阿見東向IC間の開通に伴い、公募された「未来の自分に宛てたメッセージ」を閉じ込めたタイムカプセルが開封され、羽田さんが計810通のメッセージの一部を読み上げた。

羽田さんはトークショーで「『道がつながっている』というのがいい言葉」と話し、「圏央道が全線開通した後の未来を見るのがすごく楽しみです」と期待した。

討論には羽田さんのほか、JA土浦代表理事専務の完賀浩光さん、筑波学院大学長の大島慎子さん、武蔵野銀行（さいたま市）系列のぶぎん地域経済研究所専務の土田浩さんが登壇。

圏央道の有効活用に向け、完賀さんは「農産物の物流は、これまでの常磐道に加え、圏央道の横の軸ができる。今後は面の展開が可能で、チャンスが広がる」と指摘。大島さんは「圏央道沿線を一体的にプランディングし、観光や食などで利用を促していくべき」と提案した。土田さんは茨城、埼玉両県の交流促進に向け、「越境による交流を進めることで、新しいイノベーションが生まれることに期待している」と述べた。（松下倫）